

殺生石

楠山正雄

青空文庫

むかし後深草天皇の御代に、玄翁和尚という徳の高い坊さんがありました。日
 本の国中方々めぐり歩いて、ある時奥州から都へ帰ろうとする途中、白河
 の関を越えて、下野の那須野の原にかかりました。

那須野の原というのは十里四方もある広い広い原で、むかしはその間に一軒の家も無く、
 遠くの方に山がうつつり見えるばかりで、見渡す限り草がぼうぼうと生い茂って、きつね
 やしかがその中で寂しく鳴いているだけでした。玄翁はこの原を通りかかると、折ふし
 秋の末のことで、もう枯れかけたすすき尾花が白い綿をちらしたように一面にのびて、そ
 の間に咲き残った野菊やおみなえしが寂しそうにのぞいていました。

玄翁和尚は一日野原を歩きどおしに歩いてまだ半分も行かないうちに、短い秋の
 日はもう暮れかけて、見る見るそこらが暗くなってきました。この先いくら行っても泊
 家を見つけないので、今夜は野宿をするかくごをきめて、それにしても
 せめて腰をかけて休めるだけの木の陰でもないかと思つて、夕やみの中でしきりに見まし

だが、一本のひよろひよろ松さえ立つてはいませんでした。それでも思つてまた少し行つてみると、草原の真ん中に、大きな石の立つているのが白く見えました。

「やれやれ、これで露をしのぐだけの屋根が出来た。」

と玄翁はつぶやきながら石のそばに寄つてみますと、ちようど人間の背の高さぐらいのすべすべしたきれいな石でした。玄翁は石の頭に笠をかぶせ、草を結んでまくらにして、つえをわきに引き寄せたまま、ころりと横になりますと、何しろくたびれきつているものですから、間もなくとろとろと眠りかけました。

するとしばらくして、眠っているまくら元で、

「和尚さま、和尚さま。」

とかすかに呼ぶ声がありました。初めは夢うつつでその声を聞いていましたが、ふと気がついて目をあけますと、もう一面の真つ暗やみで、はるかな空の上で、かすかに星が二つ三つ光つているだけでした。

「すると今しがただれか呼んだと思つたのは、気の迷いであつたか。」と玄翁は思つて、起き上がりもせずに、そのまま目をつぶつて寝ようと思いました。するとまたうしろの方で、こんどは前よりもはつきり、

「和尚さま、和尚さま。」

と呼ぶ声がしました。

「こんどこそ間違いはないと玄翁が思つて、ひよいと起き上がりますと、どうでしょう、さつきの石のあつた所がほんのり明るくなって、そのかすかな光の中に若い女のような姿がぼんやり見えていました。」

玄翁もさすがにびつくりして、その女に向かつて、

「呼んだのはあなたですか。あなたはどなたです。」

とたずねました。

すると女はかすかに笑つたようでしたが、やがて、

「びつくりなさるのはむりはありません。わたしはこの石の精です。」

といいました。

「その石の精がどうして迷つて出て来たのです。何かわたしに御用があるのでしょうか。偶然ながら、こうして一晩のお宿を願つたお礼に、何かして上げることがあれば何でもしましょう。」

と玄翁はいいました。

すると女は涙をほらはらとこぼして、

「あなたは有り難いお坊様のようですから、くわしくわたしの話を聞いて頂いて、その上にお願ひがあるのをごぎいます。お聞きになったこともあるでしょうが、じつはわたしは、むかしながしの院さまの御所に召し使われた玉藻前という者でございませう。もとをいいますと天竺の野に住んだ九尾のきつねでした。きつねは千年たつと美しい人間の女に化けるものです。わたしも千年の功を積むと、きれいな娘の姿になりました。するとある日天羅国の班足王という王さまが狩りの帰りにわたしを見つけて、御殿に連れ帰ってお后になさいました。わたしは長い間きつねでいた時分人間にいじめられとおしってきたことを思い出して、ふと悪い心がおこりました。そこである時天羅国にいろいろと天災がおこつて人民が困つていると、わたしは班足王にすすめて、これはお墓のかみの神のたたりですから、これから毎日十人ずつ人の首を切つて、百日の間に千人の首をお墓に供えてよくおまつりなさい。きつと災いをのがれることができますといいました。じつは天災というのもわたしが術をつかつてさせたのですが、王はこれを知らないものですから、わたしのいうとおり、毎日罪のない人民を十人ずつ殺して、千人の首をまつりました。すると人民が王をうらんで、ある時一揆を起こして王を攻め殺しました。

そしてわたしを見つけて、生け捕りにしようときわぎました。わたしはどうに逃げ出して、山の中にかくれました。そうして何百年かたちました。

二

そのうちわたしはまたシナの国に渡つて、殷の紂王というもののお妃になりました。あの紂王にすすめて、百姓から重いみつぎものを取り立てさせ、非道の奢りにふけつたり、罪もない民をつかまえて、むごたらしいしおきを行つたりした姫妃というのは、わたしのことでした。紂王がほろぼされると、わたしはまた山の中にかくれて、何百年か暮らしました。

おしまいに日本にっぽんの国くににきて、院さまのお召し使いの女つかになつて、玉藻前たまものまえと名なのりました。わたしをおそばへお近づちかつけになつてから、院さまは始終しじゅう重いお病やまいにおなやみになるようになりました。院さまのお命いのちをとつて、日本にっぽんの国くにをほろぼそうとしたわたしのたくらみは、だんだん成就じょうじゆしかけました。それを見破みやぶつたのは陰陽師おんみょうじの安倍あべの泰成やすなりでした。わたしはどうとう泰成やすなりのために祈いのり伏ふせられて、正しょうたい体を現あらわしてしまいまし

た。そしてこの那須野の原に逃げ込んだのです。けれども日本は弓矢の国でした。天竺でも、シナでも、一度山か野にかくれればもうだれも追いかけて来る者はなかったのですが、こんどはそういきませんでした。間もなく院さまは三浦の介と千葉の介と二人の武士においっつけになつて、何百騎の侍で那須野の原を狩り立ててわたしを射させました。わたしはもう逃げ道がなくなつて、とうとう二人の武士の矢先にかかつて倒れました。けれども体だけはほろびても、魂はほろびずに、この石になつて残りました。わたしの根ぶかい悪念は石になつてもほろびません。石のそばに寄るものは、人でも獣でも毒にあたつて倒れました。みんなは殺生石といつて、おそれてそばへ寄るものはありませんでした。それが今夜あなたに限つて、殺生石のそばに夜を明かしながら、何にも災いのかからないのはふしぎです。これはきつと仏さまの道を深く信じていらつしやる功德に違ひありません。あなたのような尊いお上人さまにお目にかかったのは、わたしのしあわせでした。どうかあなたのあるたかな法力で、わたしをお救いなすつて下さいませんか。わたしはもう自分ながら自分の深い罪と迷いのために、このとおり石になつてもなお苦しんでいるのでございます。」

こういつて、女はほつとため息をつきました。

玄翁げんのうはだまつて、じつと目をつぶったまま、女の話はなしを聴きいていました。やがて女の長ながい話はなしがおしまいになりますと、静しずかに目をあいて、やさしく女の姿すがたを見みながら、
 「うん、うん、分わかった。わたしの力ちからの及およぶだけはやってみよう。安あん心しんして帰かえるがいい
 」。と

いいました。

女はにつこり笑わらつて、すつとかき消けすように見えなくなりました。

そうこうするうちに、いつか夜よがしらしら明あけはなれてきました。玄翁げんのうはじめてそ

こらを見回みまわしますと、石はゆうべのままに白しろく立たっていました。見みると石のまわりには、

二三町ちようあいだの間あろくろく草くさも生はえてはいませんでした。そして小鳥こどりや虫むしが何千なんとなく重かさなり合あ

つて死しんでいました。

玄翁げんのうは今いま更さら殺生石せつしようせきにおそろしい毒どくのあることを知しつて、ぞつとしました。

もうすつかり明あかるくなつて、日ひが昇のぼりかけました。草くさの上うへの露つゆがきらきら輝かがき出やしまし

た。

玄翁げんのうは殺生石せつしようせきの前まえに座すわつて、熱心ねつしんにお経きやうを読よみました。そして殺生石せつしようせきの靈れい

をまつつてやりました。殺生石せつしようせきがかすかに動うごいたようでした。

やがてお経きやうがすむと、玄翁げんのうは立ち上あがつて、呪文じゆもんを唱となえながら、持もつていたつえで三度さんど石いしをうちました。すると静しずかに石いしは真まん中なかから二つにわれて、やがて霜しもぼし柱しらがくずれるように、ぐさぐさといくつかに小さくわれていききました。

その後旅のちたびの人が殺生石せつしようせきのそばを通とおつても、もう災わざわいはおこらなかつたそうです。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年8月2日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

殺生石

楠山正雄

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>